



上流部

・おもな産業

上流部でさかんな産業は、養蚕業・林業・観光サービス業があります。

・水利用

上流部には、3つのダムがあり、発電だけしている傾田貝ダムに対して多目的ダムと言われる矢木沢ダム・藤原ダムがあります。

・土地利用

沼田市から渋川市では、ワワコンニャク、やまい、りんごなどが作られている。

夏は、谷川岳の登山客はスキー場の基地として四季を通じて観光客を集めています。

利根川

基本情報

延長 322km

流域面積 16840km²

水源 大水上山

水源標高 1840m

河口・合流先 太平洋

利根川は関東平野を北西から南東に大動脈のように流れる大きな川です。坂東太郎とも呼ばれています。信濃川について日本第2の長さをもつ川ですが、ふとい本流から木のえだのようにわかれたたくさんあり、その数は285にもなり、面積は日本最大の川です。

江戸川

生物の違い～江戸川

魚⇒アオウオ
トビハゼ
天然ウナギ

ボウコイ
スズキ

利根川

魚⇒イwana
ハセ
カタクチイワシ
虫⇒オムラサキ
オセトトンボ
ハクロトンボ

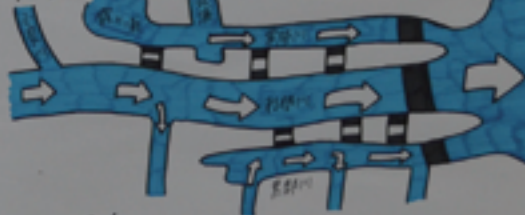
下流部

・おもな産業

黒潮海流と親潮海流がぶつかる下流部分では、太平洋の沖合漁業がにぎやかです。河口にある千葉県銚子市でエシエウ作りが有名です。

・水利用

水門があり、江戸川と利根川に流す水量を調節しています。



△下流の水利用図 ■...水門

・土地利用

基盤の目のように綺麗に水田が広がっています。田畑も多く、サツマイモやスイカ、ピーマンなどが栽培されています。また、あたたかい気候を利用して、ビニールハウスで野菜の促成栽培も行っています。

利根川の歴史

利根川の工事を歴史的に見ると、江戸時代・明治時代・昭和と目的や方法に違いがわかります。江戸時代は、新田開発のために農業用水路をつくりました。明治時代は水運のために利根運河をひらく工事もおこなわれたが、洪水をふせぐための工事が中心になって水がたくさん流れこんだときにそなえたのです。昭和にはいると、洪水をふせぐために多目的ダムをつくるようになりまし。利根川は、むかしから水害の多い川でした。記録によると、明治時代、15年に1度は大きな水害がおきたそうです。住宅地では水をためておく所が無いので、下水道を掘って川に流れこんだ水があふれると、町の中に流れたし、家が水にのこってしまうのです。流れる水の量や流路も管理された川を歴史的河川といいます。